

熊本震災シンポジウム—1年後の現場からの報告—

へこん 『陥没で、たまるか！～熊本地震～』

—震災をバネにした地域づくり—

1. 開催趣旨

熊本地震は、『二重の複合型震災』を引き起こした。「マチ型震災」と「ムラ型震災」である。同時に「地震」と「6月豪雨」の複合災害である。目に見えやすい「マチ型震災」に比べ、「ムラ型震災」の実態はあまり知られていない。しかし、農村部の被災者も地震・豪雨の被害にメゲず、立ちあがってきた。

この間の記録を、西原村の「農ボラ」から「百姓応援団」へ、御船町の「地区座談会」から巨石撤去へ、山都町での「復興会議」から「山都町棚田復興プロジェクト」へ、現場で汗をかいた人たちによる報告会を軸にシンポジウムを開催いたします。

皆さま、ふるってご参加ください。

<ご報告>

「ふるさと発 復興会議～九州・熊本～」は、平成29年4月に一般社団法人化します。名称は、「(一社)ふるさと発・復興志民会議」に変わります。

「志(こころざし)」を持つ人々が立ち上がり、連携して、より良き地域社会を構築していくという理念のもと「志民」会議と名付けました。

活動はこれまでと同じ理念・方針で、被災者の「暮らし」と「農」の支援を継続します。

2. 開催要項

■日時 平成29年4月2日(日) 13:30～17:00(13:00受付開始)

■場所 熊本大学黒髪北キャンパス 「くすの木会館」

(住所 〒860-0862 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40)

■参加費 無料

■定員 100名(申し込み先着順)

■主催 熊本大学文学部地域社会学研究室、ふるさと発・復興志民会議

※裏面にプログラムを記載しています。

2016/10/18 御船町田代西部地区座談会の様子



2016/12/3 60名のボランティアによる御船町上野水路復旧



3. プログラム

- 13:00 受付開始
- 13:30 開会 総合司会 岸本亨（ふるさと発 事務局長）
- 13:30～13:35 **主催者挨拶 牧野 厚史**（熊本大学文学部・地域社会学研究室教授）
- 13:35～13:50 **開催趣旨と経緯について** 徳野貞雄（ふるさと発 統括）
- 13:50～14:20 **<住民と向き合った復興物語>**
御船町役場と「ふるさと発・復興志民会議」の地区住民座談会のコラボから生まれた住民の【やる気】と、農の復興。
（報告者）高橋寛敦（御船町企画財政課復興推進係長）
松下修（ふるさと発 司長）
山下陽子（水越地区活性化協議会事務局長）
河井昌猛（ふるさと発 議長）
- 14:25～14:55 **<鼎談：外部支援による特異なボランティアの誕生>**
西原村の「西原村災害ボランティアセンター」と「農業ボランティア」成立とその奇跡への鼎談、被災時のボランティア活動とは！
（報告者）藤本延啓（元西原村災害ボランティアセンター統括、熊本学園大講師）
佐々木康彦（山の暮らし再生機構主任支援員・西原村臨時職員）
河井昌猛（ふるさと発 議長・西原村百笑応援団団長）
- 15:00～15:30 **<悩んだ、火がついた、巻き込んだ！>**
「山都町棚田復興プロジェクト」の持つ意味と、今後の山都町の課題と展望
（報告者）下田美鈴（山都町棚田復興プロジェクト代表）
朝廣和夫（九州大学大学院芸術工学研究院・准教授）農地復旧の専門家
小森耕太（福岡県八女市黒木・山村塾事務局長）農地復旧現場リーダー
＝休憩（15分）＝
- 15:45～16:15 **現場記者から見た「ムラ型震災」と支援活動の365日**
（報告者）毛利聖一（熊本日日新聞社・政経部長論説委員）
- 16:20～16:40 会場からの意見、質疑応答
- 16:40～16:55 **まとめー「ムラ型災害」ーとは何か？**
復興支援体制のプロセスを軸にー 徳野貞雄（ふるさと発 統括）
- 17:00 閉会

<お問合せ、お申込み先>

ふるさと発・復興志民会議

事務局長 岸本 亨

■住所：〒862-0915 熊本県熊本市東区山ノ神2丁目9-16（松下生活研究所LLC内）

■電話：096-202-4136 FAX096-202-4055、Eメール：toru@matsuken-lab.com